

# 岐阜県学生会館OB会・会館だより NO. 8

発行：岐阜県学生会館OB会



郡上八幡城天守閣（左）と堀越峠方面から望む郡上八幡城遠景（右）

## 目次

### 【OB会だより】

- ◆岐阜で第12回OB総会開催さる—キャッスルインに80余名集う 2
- ◆初期国立時代支えた加藤歌子さん逝く—郡上踊り囃子聴きつつ 2
- ◆加藤さんに別れを告げた郡上行き—白石 周子（昭和45卒） 3
- ◆古希軟式野球でがんばってます—足立 賢次（昭和46年卒） 4

### 【会館だより】

- ◆岐阜県各地で父母会・入寮説明会—豪雨・台風で日程変更も 4
- ◆サッポロライオンで就職懇談会—参加団体・企業15社 5
- ◆地元住民が楽しむ寮祭「若鮎祭」—ランチ、富有柿が人気 5
- ◆楽しさ・切なさが同居する宴—卒寮生追い出しコンバ開催 6
- ◆編集後記 6



王滝村方面から御嶽山を望む

## 【岐阜県学生会館OB会だより】

岐阜で第12回OB総会開催さる

—「岐阜キャッスルイン」に80余名集う—

平成30年6月17日（日）午前11時～午後2時、新岐



阜駅前の「ホテル岐阜キャッスルイン」で、河村守康（公財）濃飛会理事長の出席のもと、第12回岐阜県学生会館（寮）OB総会が開催されました。前回の横浜中華街で開催された総会（平成28年11月）で、寮のOBの多くが岐阜地区に在住することに対応して、今後、総会は2年ごとに岐阜で開催されることとなり、今回はその第1回でした。



河村守康理事長

参加者は、岐阜エリア61名、関東エリア21名、合計82名。うち女性は草創期の国立時代の寮生3名と職員1名、平成20年以降に現在の八王子の寮を卒寮した若手が3名と、合計7名でした。



井口篤郎OB会長

総会は柴田丈夫OB会岐阜支部長の開会の辞からスタートし、井口篤郎OB会長挨拶、河村理事長の来賓挨拶のあと、OB会の運営方針、決算報告、規約改正等々の審議が行われ、寮OGの白石周子寮監から、学生会館の近況報告が続きました。



白石周子寮監

その後、平成12年卒寮の公認会計士資格を持つ、（株）エヌネットワークス執行役員の下村雄一郎氏が「この年で今を思う人生観と



講演する下村雄一郎氏  
世界観」という演題で記念講演を行い、岐阜県学生会館時代の思い出から、現在の仕事、経営者観、日本および日本企業、岐阜県の企業の進むべき道などについて、縦横に語ってもらいました。

ここで総会はひとまず終了し、改めて懇親会に入



上ヶ平武士氏

りました。まず冒頭、第1期生で初代OB会長を務めた上ヶ平武士氏が、OB物故者を追悼する詩文を詠み上げられたあと、昭和38年卒寮の松下晴代さんのご発声により乾杯を行いました。



乾杯する松下晴代さん（右）



挨拶する若手女性OBたち

の喝采を浴びていました。

なお、今回のOB総会を機にOB会費の徴収をさせていただきました。今回から総会を2年ごとに岐阜で行うこととしたため、徴収額も2年分2千円（従来は3年分3千円）とさせていただきましたが、総会から1カ月余り経った7月末現在で、180名の方からお支払いいただきました。この中には総会会場でお支払いいただいた方々も含まれていますが、従来の徴収時より納入率は改善されました。

現在、住所が把握されているOB・OGは1千名前後です。岐阜県学生会館をサポートするために、少しでも多くの卒寮生の方々のご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いします。

次回のOB総会は来年2020年に岐阜で開催される予定ですが、平成卒世代のOB・OGの方々の参加に期待したいと思います。皆さん、東京オリンピック・パラリンピックの年に、岐阜でまた会いましょう！

### 初期の国立時代支えた加藤歌子さん逝く —郷里で郡上踊りのお囃子を聴きながら—

国立にあった岐阜県学生寮が産声を上げてまだ間もない昭和40年前後、寮の職員として寮生の貢いか



ら身の周りの世話まで、献身的に務めておられた、郡上八幡在住の加藤歌子さんが、平成30年夏の郡上踊りが終わりに近づいた8月27日、逝去されました。その前後の出来事を、少し報告しておきます。

私(昭和46年卒・江口敏)は数年前から、学生寮時代にスナッ

ク「スペイン」の常連だった岐阜寮の仲間4人で、幹事持ち回りの飲み会を兼ねた1泊旅行をしています。昨年は8月初め、およそ半世紀ぶりに、郡上八幡のS君宅に泊めてもらい、郡



学生寮時代の加藤歌子さん(左端) S君が突然、細い露地にクルマを止め、「ここが加藤さんの家です。ちょっと寄ってみますか」と言い、玄関を入っていきます。加藤さんは在宅でした。廊下を奥まで入っていくと、テレビのある居間で、加藤さんは車椅子に座っておられましたが、昔のままの笑顔で、お元気そうでした。

ただ、半世紀ぶりの再会ですから、S君の顔以外は、思い出せないような感じでした。そこで、私たちと同じ時期に寮生だった白石周子寮監(旧姓立川)の話をし、私が携帯で白石寮監を呼び出し、加藤さんに渡しました。2人の通話はしばらく続きましたが、加藤さんは終始笑顔でした。

30分ほどお邪魔したでしょうか。「加藤さん、いつまでもお元気でね」と言って別れるとき、加藤さんは「車椅子だからここで失礼するわ」と言われ、私たちは加藤さんを居間において、加藤邸を辞したのでした。



丸信会の様子(8月4日) 催されました。この会は毎年8月の第1週土曜日と、12月の第2週土曜日に行われています。この会の幹事の1人が昭和43年卒

の石田岩男さんで、郡上八幡出身です。私が加藤さんの写真を石田さんに見せると、「加藤さん、元気かあ。この写真、もらっていいか」とお持ちになりました。

その後、加藤さんと同じ時期に岐阜寮で賄いをされていた、京都市在住の久保川(旧姓鈴木)玲子さんと一緒に郡上八幡へ行き、加藤さんに会ってくると言っていた白石さんから、「加藤さんと電話がつながらない」という連絡が何回かあったあと、月末になって「加藤歌子さん、亡くなられたわよ!」という連絡が入ったのでした。

俄には信じられません。私はすぐにS君の携帯に電話をしました。S君もびっくり仰天です。S君は現在、半ばボランティアで郡上八幡城の管理に携わつており、そのとき城の事務所にいたようです。S君は手元の新聞の死亡欄を見て、加藤さんの逝去を確認しました。

加藤さんは長年、自宅で療養を続けられていたようで、居間とベッドのある部屋の間の廊下を移動するのも難儀だったようですが、私たちが訪ねたときは、そんな辛さも見せまいとされたのでしょう。およそ50年ぶりの再会が永遠の別れになろうとは思いませんでしたよ、加藤さん。どうぞ安らかにお眠りください。合掌。(江口敏・平成30年12月記)

### 加藤さんに別れを告げた郡上行

#### 白石 周子(昭和45年卒)

8月2日、突然、江口さんから電話が入りました。



「今、郡上に来て、加藤歌子さんのところにいるので、本人に替わります」。「エッエッエー、どういうこと!?」――。

訳がわからず電話の声を待つと、「立川さん!」――。私にとっては何年か前、ウン十年ぶりで鈴木(現久保川)玲子さんから電話をもらった時以来の驚きでした。玲子さんが以前から、「加藤さんはどうしているかしら?」と言っていたので、OBの皆さんに消息を尋ねていたところでした。

その後、江口さんから送られてきた加藤さんの写真のコピーを、京都在住の玲子さんに送って、郡上八幡行きを8月29日に決め、歌子さんには以前の丸信会の写真のコピーを、写っているOBの名前を書き込んで送りました。

ところがその後、歌子さんに何度電話しても、つながらないのでした。そこで郡上出身で愛知県に在住

の、寮OB・和田正さん（昭和42年卒）なら何か解るかと思い、連絡をしたところ、29日に和田さんも郡上に同行してくださいましたことになりました。しかし、歌子さんとはまだ連絡がとれません。不安で胸騒ぎがします。

明日、郡上行きという28日、歌子さんの妹さんから電話が入りました。「姉が昨日（27日）亡くなりました。送っていただいた写真を、病室で嬉しそうに見ていました」——。あまりのことに言葉を失いましたが、やつとの思いで、明日訪問する予定だったことを告げると、「病院からは戻ってきてているので、どうぞ来てください」と言わされました。

8月29日、長良川鉄道の始発駅である美濃太田駅で和田さん、玲子さんと待ち合わせ、和田さんのクルマで歌子さんの自宅に向かいました。病院から戻ったばかりの歌子さんは、昔と同じ優しい笑顔でしたが、50年ぶりの再会がこのような形になろうとは……、言葉がありません。

妹さんたちとしばらくお話しして帰路に就きました。途中、歌子さんと同じ頃、一緒に仕事をされていた清水スミさんの話になり、早いうちに消息を知りたいとの想いを抱いて、和田さん、玲子さんと美濃太田で別れました。

## 古希軟式野球でがんばってます！

足立 賢次（昭和46年卒）

去る6月17日（日）、岐阜キャッスルインで開催された寮のOB会に久しぶりに参加し、懐かしい人たちにお目にかかることができ、楽しいひとときを過ごさせていただきました。そして、しばらくの間、



20歳前後の野球に明け暮れた日々のことが、走馬燈のように蘇ってきて、現在も古希軟式野球を続けている私は、自分の人生は野球なくして考えられないなど、改めて感じました。

私が国立の岐阜県学生寮に入寮したのは、昭和42年春でした。当時の4年生に岐阜高校野球部の先輩、松下啓行さんがおられました。松下さんは岐高2年の春、甲子園に出場され、3年生の時はエースとして岐高野球部を背負った人であり、寮へ入ってからも、野球部のエースとして、国立市の大会で寮野球部を優勝に導いた人ですから、仰ぎ見るような存在でした。

私も岐高3年の時は、エースとして投げ続け、夏の大会では三岐大会にまで勝ち進みました。当時は、岐阜県・三重県から1校しか甲子園に行けず、三岐大会が行われていたのです。三岐大会にまで勝ち上がりながら、あと一歩で甲子園というところで、刀折れ、矢尽きました。そのときの悔しさが、私の人生の底に流れているような気がします。

岐阜県学生寮に入るとすぐに野球部に入部し、肩を痛めておられた松下さんに代わって、登板機会をもらいましたが、結局、国立市の野球大会で優勝旗を持ち帰ることはできませんでした。結局、私は岐高でも、岐阜県学生寮でも、松下さんという壁を乗り越えることはできなかったんだと、時々、思い出しては苦笑いしています。

しかし、私は70歳を超えた現在も、地元の古希軟式野球チーム「オール岐阜」の現役選手としてプレーしています。OB会直前の6月初め、長野県で第4回「中部日本 古希軟式野球」長野大会が行われ、わがチームも出場しました。出場チームは12チームでしたが、わがチームは決勝まで勝ち進み、決勝で惜しくも静岡大井川倶楽部に敗れ、準優勝に終わりました。私の野球人生には、「あと一歩」の運命がつきまとっているのでしょうか。

若い頃の颯爽としたプレーは、もう見る影もありませんが、古希になっても必死でプレーする「一球入魂」の気持ちは、若い頃とまったく変わりません。三振を取ったときの満足感、外野を抜ける打球を見ながら走る爽快感、青空に飛んでくる白球を追い捕球したときの高揚感、そうした野球の楽しさに、年齢を忘れ、熱中する日々を送っています。

## 【岐阜県学生会館だより】

岐阜県各地で父母会、入寮説明会を開催

—豪雨・台風に直撃され、日程変更も—

リーマン・ショックから10年が過ぎましたが、リーマンショック直後、岐阜県から東京周辺の大学を受験する生徒が、急激に減少した時期がありました。OBが中心となって、岐阜県下の高校に岐阜県学生会館の存在を積極的にアピールするようになったのは、その頃からです。

入寮生の父母たちと寮の職員やOB役員が年に1度、県下で懇談する父母会は、それ以前からありましたが、受験生やその父母に対して、岐阜県下で入寮説明会を行うようになったのは、6年前からです。八王子の学生会館の存在を知ってもらい、少しでも

入寮希望者を増やしたいという考えからでした。

平成30年の秋にも、8月末に岐阜市と高山市で父母会を開催し、在寮生の父母を通して周辺の受験生の父母に学生会館の存在を知らせる努力をし、9月末から10月前半にかけては、多治見、岐阜・大垣、高山で、受験生とその父兄に対して、学生寮の説明会を開きました。

入寮説明会への参加者数は、多治見市文化会館3名、大垣スイトピアセンター3名、岐阜市民会館9名、高山市民文化会館6名でした。

こうした学生会館の存在を周知徹底する積極的な試みは、岐阜地区O B会の協力により、この5年間でかなり浸透し、入寮希望者の増加につながっています。平成30年秋は、豪雨と台風に直撃され、コメづくり農家だけでなく、柿づくり、梨づくりなどにもかなり影響を及ぼしたようですが、寮も12月初旬に岐阜で入寮説明会を追加開催しました。岐阜地区における募集活動は今後とも、O Bの皆さまの協力を得ながら、力を注いでいく予定です。

### サッポロライオンで就職懇談会！

#### —参加団体・企業15社、参加寮生18名—

昨年10月14日（日）午前11時30分～午後4時、銀座ライオンビル6階のクラシックホールで、恒例となった就職懇談会を行いました。参加企業・団体は、常連の岐阜県人事委員会、岐阜県警察本部、岐阜市東京事務所、十六銀行、大垣共立銀行、イビデンなど



15社が参加した就職懇談会

ど、15団体・企業でした。寮のO Bも在籍する大日本土木が初めて参加されました。

第1部の「就職懇談会」は、岐阜県学生会館の師岡主事の挨拶から始まり、寮生委員長の保木口龍成君（慶應大3年）の司会で、15の企業・団体の出席者が順次、プレゼンテーションを行いました。寮生は真剣に採用担当者の話に耳を傾けていました。岐阜県学生会館寮生の出席者は、間もなく就活の時期を迎える3年生を中心に18名（男子13名、女子5名）で、茗荷谷の岐阜県学寮からは杉江弘充寮監が出席されましたが、寮生の出席はありませんでした。

第2部は、企業・団体の出席者の方々と学生が直接に交流ができる、立食パーティ形式の懇親会で、サッポロの生ビールを飲みながらの歓談となりました。

採用担当者の方々と学生が、フランクに話し合う姿を見ていると、銀座での就職懇談会を10年以上にわたって続けてきたことが、実を結びつつあるという感じがしました。

ただ、毎回参加いただいている企業は、名前はまだ広く知られているわけではありませんが、成長性を秘めた面白い会社が揃っています。寮生にはそういう企業にも目を向けてほしいものです。

懇親会半ば、参加した寮生が1人ずつ壇上に上がり、就活にかける意気込みや、目指している職種など、短い自己紹介を行いました。以前と比べると、最近の寮生は自己PRが上手くなりました。最後に「岐阜県民の歌」を全員で大合唱し、無事、就職懇談会は終了しました。



就職懇談会の記事（一部）

この就職懇談会は10月16日付けの岐阜新聞に記事として掲載されました。書いたのは根尾文悟記者。中日にドラフト1位入団した根

尾昂選手とのご縁は？

なお、今秋の就職懇談会は10月13日（日）11時30分～16時に、銀座ライオンで開催します。

### 地元の老若男女が楽しむ寮祭「若鮎祭」！

#### —ランチサービス、格安富有柿が人気—

昨年11月18日（日）、寮祭「若鮎祭」が開催されました。かつて国立にあった岐阜県学生寮時代の寮祭は、周辺の住民が参加するということはほとんどなかったと記憶していますが、八王子の岐阜県学生会館では、若鮎祭は2年生の寮生が中心になって、来寮する周辺住民をおもてなしし、初冬の日曜日のひとときを楽しんでいただくという側面が強くなっています。

周辺住民の人たちも、この日は会館の寮祭に顔を出し、格安の岐阜の名産・富有柿を買い、食堂で寮生たちが調理したさまざまなランチを楽しんだり、



岐阜から送られた富有柿

裏庭の淡墨桜の樹の下で焼きそばで寛いだりすることが、初冬のひとつの楽しみになっています。食堂ではよちよち歩きの小さな女の子が、我が物顔で歩き回っていました。

寮祭の1週間ほど前に寮を訪ねた際、畳の居間を覗くと、部屋一面に岐阜から送ってきた富有柿が



富有柿を笑顔でPR

並べられていました。寮のO Bの中に大々的に富有柿をつくっている先輩がいるお陰で、寮の周辺住民に安価で提供でき、喜んでいただけることに感謝した

いと思います。送られてきた富有柿は、寮祭当日、裏庭のテントの下と、食堂の一画で販売されました。購入される住民の方々は、皆さん笑顔で買っていかれます。



厨房で腕を奮う寮生たち

財団法人濃飛会の岐阜県学生寮が、岐阜県学生会館と衣替えして、国立市から八王子市子安町に移ってから、30余年になりますが、学生会館は完全に子安町に溶け込んだと言えるでしょう。子安町のお祭には、

寮から1年生男子が御輿の担ぎ手として参加しています。1年生で町内会の御輿を担ぎ、2年生で寮祭を運営し、3年生で寮の執行部を担当するというシステムが、とても上手く機能している感じです。寮生活の間に身に付けた和の心、利他の精神を、今後の人生に活かしてほしいものです。

### 楽しさ&切なさが同居する宴！

#### —平成30年度卒寮生追い出しコンパ開催—

去る12月15日(土)午後6時より、学生会館食堂で3月に卒寮する寮生を祝福する「追い出しコンパ」が行われました。まず最初に、卒寮予定の4年生が次々に挨拶に立ち、寮生活で得たもの、後輩たちへの感謝、4月からの新天地での社会人生活への抱負などを披露しました。4年前の入寮面接会や、新入寮生歓迎会当時の不安げな初々しさは微塵もなく、余裕綽々、立派な挨拶ばかりでした。

3年時に寮の委員長を務めた大嶋芳宗君(中央大)が、風邪で高熱を出し、近所の病院が全部休診で苦



こんなに立派になりました！

しんでいたとき、白石寮監が駆けつけ、タクシーで遠くの病院に連れて行ってくれたときは、本当にありがたかった、という思い出を語ったとき



送る側もなぜかウルウル……



大嶋君(左)と保木口君

には、さすがに「厳しき寮母」白石寮監の目にも光るものがありました。

その後、保木口龍成君(慶應大3年)の送辞、大嶋芳宗君

(写真左)の答辞と続きましたが、大嶋君の答辞はなかなかのものでした。黒板を使いながら、「寮」という漢字の意味を、「遼」「僚」「療」

などを引きながら説くなど、まるで偉い漢文の先生の講義のようでした。2年前の寮祭でコントや大喜利に挑戦し、見事にすべていたのとは大違いの、成長した大嶋君の姿を見て、大したものだと脱帽しました。

来賓挨拶では、中屋勉常務理事が卒寮に祝意を表するとともに、今後の社会人生活への励ましの言葉を贈りました。さらに、大塚勇雄理事からは、O B会活動の現状の説明がなされ、O B会への積極的な参加が呼び掛けると同時に、O B会からのお祝い金



の贈呈が行われました。

最後は清水洋二常務理事の音頭で乾杯し、スキヤキパーティに雪崩れ込みました。卒寮生たちには、寮での体験を活かしながら、立派な社会人になってほしいものです。

### 【編集後記】

「O B会だより・会館だより」をお届けします。当初、この会報は「O B会だより」としてスタートし、主に個々のO Bの動静を寄稿していただいたり、取材したりして作成していましたが、寮の現状を取り上げるべきとの意見もあり、両建ての編集に移行してきました。編集的な観点に立てば、寮の情報は毎年同じ材料になるくらいがあり、現状は試行錯誤の段階です。O Bの積極的な寄稿、大歓迎です。

なお、このほど、会館のパソコンに新たにO B会用のメールアドレス [obkai-ggk@nohikai.com](mailto:obkai-ggk@nohikai.com) を設けました。住所変更のご連絡、ご質問、ご投稿等々、お気軽にご送信ください。お待ちしています。

(2019年1月 江口敏 記)